

---

# バランス

及出智紀

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

バランス

### 【Nコード】

N6619L

### 【作者名】

及出智紀

### 【あらすじ】

腰掛けOLのサヤとアカネ、肉食系のアカネに比べ草食系のサヤは、シヨッキングなフラれ方をしてから、恋の欲求を食欲に変えてしまった。

そんなサヤの前にあの男が現われ、一目惚れしたサヤはダイエットして、告白すると決意するのだが・・・。

## （前書き）

私としてはサスペンス、犯罪小説のつもりです。  
初投稿ですので、ヘタクソですが読んで下さい。

「今日ごはん行こうよ」

アカネが給湯室でこう言う時は、決まって新しい彼氏が出来た時だ。

いつも終電間際までノロケ話を延々と聞かされるので少し気が向かないが、何か理由をつけて断つても明日にセッティングされるだけなので、サヤは今晚を犠牲にする事に決めた。

「いいよ。じゃあ、いつもの店でね」

作り笑顔でサヤが言う。

「うん。今日もパスタセットにしようかな」

アカネは天井を見上げて呟いた。

サヤとアカネは、短大を卒業し今の会社へ入社した同期だ。特に気が合う訳では無いのだが、同期に女子が3人しかおらず、もう一人は二年で寿退社した為、その頃から自然と二人で会社帰りにちよくちよく食事へ行くようになった。

大概がアカネのノロケ話だが、その彼との殆どは三カ月ももたない。だからサヤは一・二カ月に一度はアフターファイブを犠牲にしている。

アカネは流行りに敏感なタイプで、ファッションも髪型も、持ち物まで最先端を追いたがる。もちろん男もだ。24歳で大人の色気も身につけてきて、その艶と張りのある身体に男も群がる。

一方サヤは、ダサイ訳では無いが、流行の最先端を追う訳でもない。サヤにはサヤの拘りが有り、アジアンテイストな服装を好む。男もそれなりに何人かつきあってきたが今はフリー。つい最近フラれたのだ。

そのフラれ方がショックだった。彼氏が別の女と歩いているのを目撃、問いただすとあっさり二股を認めた。さらに問いただすと三股だったのが判明し、別れ間際に、

「おまえは三人の中で最下位だから」とサラリと言われたのだ。

それから三カ月が経つのだが、未だ精神的に立ち直れていなく、恋をする気にもなれずに最近では恋のストレスを食欲で発散している。おかげで細身だった身体が、身長160センチに対して体重が65キロにもなってしまった。

午後5時が過ぎ、仕事は所詮結婚までの腰掛けと考えているサヤとアカネは、難しい顔をしてパソコンと向き合っている男性社員達を横目に、負い目を感じることもなく、

「おつかれさまでしたあ〜」  
と声を合わせて会社を後にする。

いつもの店とは、会社から歩いて10分のところにある、店全体にミントグリーンの木目が特徴のこじんまりとした洋食屋だ。

ここはどこか透明感があり、落ち着いた雰囲気二人は気に入っている。

テーブルに着くなりアカネは、

「私はパスタセットにしよ。最近合コン行き過ぎて金欠だから、安くておいしいやつ」

と楽しそうに言った。

「私はお肉が食べたいな。お腹空いちやっつて」

サヤが小声で言うのと、アカネは心配そうな顔で、

「サヤ、最近食べ過ぎじゃない？少し顔に肉ついたよ」

と少し遠慮がちに言った。

サヤが黙っているのと、アカネは言いにくそうに、

「もう忘れようよ。辛いだけだし。。。ヤケ食いは1日だけにしないと。続けるのは危険だよ」

と、シヨックの癒えないサヤを気遣うが、サヤは、

「うん。わかってる。大丈夫だから」

と生返事をしてそれを遮った。

その後アカネは、サヤの事は何も言わず、パスタセットを食べながら、新しい彼氏のノロケ話を延々始めた。

その間、サヤは注文したハンバーグステーキセットを食べながら、見事な聞き役に徹した。

その時、一人掛けの椅子が並ぶカウンターの奥にある、厨房になぜか目がいった。

一目惚れだった。

その男は厨房で黙々と肉を包丁で切っていた。シャープな顎に髭を整えて、奥二重の鋭い眼が印象的だった。今まで気がつかなかったのか、新人なのかは判らないが、サヤの目から脳へと、突然フラッシュが飛び込んできた様だった。

「ねえ、私の話聞ってる？」

突然無反応になったサヤに、アカネは不機嫌そうに言った。

「あ、ごめん。聞ってるよ。ねえ、アカネ、ここにあんな人いたっけ？」

サヤが目と顎で厨房の男を指すと、アカネは振り返り厨房を見た。「うん．．．初めてみるかなあ。わりとイケメンだね。サヤのタイプ？」

アカネが言うと、サヤは照れながら、

「うん。まあ．．．」

と下を向いて言った。

アカネは、突然のサヤの変化に驚きながらも、うれしそうに「やったじゃんサヤ！これで食いしん坊ともサヨナラだね」と言った。

サヤは不安げな顔で

「やめれるかな．．．」

と呟いた。

結局その日のサヤは、アカネのノロケ話を3時間程聞いて帰途についた。だが、その殆どは頭に残っていなく、残っているのは厨房に居た男の顔だけだった。

サヤは決意した。

(絶対痩せてやる。綺麗になつてコクろう・・・たぶん・・・)  
その日以来、サヤは朝、昼、晩とリンゴと水しか摂らなくなった。洋食屋には、一週間に一度はアカネを奢るからと無理矢理誘い、自分分は水を飲むだけで、あの男が厨房で肉を切る姿を眺めるだけだった。そんな生活も最初の二週間は辛かったが、それを乗り越えると身体が順応するのか楽になり、体重が一か月で60キロ、二か月になる頃には57キロになり、元々顔は悪くないサヤは、肉が落ちる度に綺麗になつていった。

しかし、サヤは焦った。最近あの男を店で見かけないのだ。

(もしかして、店やめちゃったのかな・・・そんなのやめてよお・・・  
今度会えたらコクらなくちゃ・・・)

二週続けて店にいなかっただけが、サヤの寂しさ、あの男への思いが、ダイエットへ昇華していき、ついには水しか摂らなくなつた。

そんなサヤにアカネも心配になり、

「サヤ、もう十分痩せて、綺麗になつたよ。私も彼をみたらサヤに教えてあげるから、ダイエット中止したら？」

と諭すように言うがサヤの耳には届かない。

遂にサヤは会社も休むようになった。

アカネがサヤの携帯電話に、あの男が店に復帰したとメールで伝えても返事がこなかった。サヤのマンションへ行つた時には、玄関扉を少し開け顔を見せたが、ゲツソリしたサヤの顔面をみて背筋に冷たいものを感じ、あの男が店に復帰している事だけを伝えて慌て帰ってしまった。

(サヤ、今度は拒食症になつて・・・。目が怖かつたし、どうしよう・・・)

サヤが会社を休むようになって2週間がたつていた。サヤの部屋

は夜でも照明が灯る事は無く、静まり返っていた。部屋の隅で顔を膝の上に乗せ、体育座りの乾ききったサヤの身体以外は湿気が漂っている。虚ろな目でサヤが呟いた。

「あの人と一緒にになりたい・・・。」

携帯電話を手に取りアヤカにメールした、

【今からあの人に会いに行く。丁度、店が終わって1人で帰るころだし。】

アヤカはそれを見て不吉な予感がした。あの人に会う前にサヤに会わなければと直感し、自宅を飛び出た。春の夜風が冷たく顔をビシヤする気がして涙が出てきた。

（お願い！間に合って！）

まず洋食屋へ行ったが、すでに店はクローズの看板が扉に掛けてあり、だれも居なかった。サヤの部屋へタクシーを拾って向かった。サヤのマンションにへ到着し、タクシーを降りて、ダツシユでサヤの部屋へと走った。三階建ての三階301がサヤの部屋だ。エレベーターは無いので、息が切れる。

そして301号室の玄関についた。チャイムを押すが反応無し。扉のノブを左右に回すと回る。

「開いてる・・・」

扉を開けて中に入ると、誰もいない。部屋にはテーブルに飲みかけの水が入ったグラスが置いてあるだけで、後は整頓されたアジアンテイストな部屋がそこにあるだけだった。

・・・が、キッチンの方を見ると、シンクの下にある扉が開いているのに気がついた。近づいて見ると扉の裏に包丁が一本掛けてあるが、残り二本を掛ける場所には何も掛っていなかった。

とその時アカネの携帯電話が鳴った。一瞬びっくりし、声を出しそうになったアカネはジープンのポケットから、なかなか携帯電話を取り出せない。慌てて取り出した時には着信音も止まっていた。

見るとサヤからメールが届いていた。二つ折りの携帯電話を開けて、メールを確認すると・・・。



【やっとあの人と一緒になれた。肉柔らかい】

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6619/>

---

バランス

2010年10月11日23時15分発行